

家族の時間は子ども達の未来のために

岐阜市立岐阜清流中学校 3 年

山本 梗太（やまもと こうた）

みなさんは、自分の周りにいる家族や友達をどのような存在だと思いますか。私は、将来や進路を決める、欠かせない大切な存在だと考えます。この中学生という時期は、気持ちが不安定になりやすく、周りにいる人達からの言動を敏感に受けやすいと思います。

私は、中学2年生時、家出を体験しました。周りにいる人たちからの言葉に棘を感じるようになったので、それを家族に相談しました。しかし、自分の中で上手く整理がつかず、学校や野球に行っても投げやりな気持ちでした。学校で生活していてもどうってことないことが嫌になり、友達の言葉がどんどん、どんどん棘のある言葉のように聞こえて、著しく不安定な状態でした。野球に行っては、監督コーチに叱られ、いつもなら「次こそはやってやる。」と前向きな気持ちになれましたが、その時は「めんどくさい」や「適当にやっつけばいい」という負の感情ばかりが湧き出てきました。また、このような感情しか出てこない自分にも嫌気がさし、何もかもから逃げ出し、家を出ました。家出をした時はとても気持ちがよくて、「このまま好きなことをしたい。」と思いました。しかし、そんな世界から現実に戻してくれたのは家族でした。両親は、私が嫌だと思っていることを真剣に聞いてくれて、一緒に泣いてくれました。こうして、私は負の感情地獄から抜け出すことが出来たのです。この私の経験から伝えたいことがあります。それは、「中学生にとっての最大の安全地帯は、家族がいる場所である」ということです。もしもあの時、私の話を聞いてくれなかったら、今ここにいなかったと思います。家出をしたまま帰ってこないで法を犯し、非行に走り、犯罪者になっていたかもしれません。そんな中、私がここにいられるのは紛れもなく、家族のおかげだと思います。だからこそ、家庭は安全基地となり、子どもが親になんでも相談できる環境を作って欲しいのです。

2020年の「友達のような親子関係が良いと思うか」という親世代へ向けたアンケートでは、友達のような親を肯定したのが、20代は41.7%で、40代から50代は約30%となっています。私はこの結果を見て、何でも話せる親子関係を築くことの難しさを感じました。そして、親が子どもと接する一週間の平均時間は、父親は0~4時間が最も多く、母親は20~29時間が最も多い結果となっています。この結果からも、父親と子どもが接する時間の少なさを感じました。また、最近はスマートフォンなどの電子機器が普及し、家族の時間が少なくなっているように感じます。なので、仕事や家事で忙しく、子どもと接する時間の少ない方々には、子どもと向き合う努力をして欲しいと思います。なぜなら、私を含めた子どもたちは将来のことや進路のことですべてとても不安です。だけど、話を聞いてもらうだけで安心するからです。どうか、子どもと向き合う時間を増やしてください。

ここで、私は全国の子どもをもつ方々に伝えたいです。「中学生の私たちは、多くの悩みを抱え、毎日必死に生きています。だから、どうか私達の話聞いて下さい。」と

どうしようもなく不安で、何に対してもいらだち、投げ出しそうになったあの日から、もうすぐ1年が経とうとしています。私は今、いつでも話をじっくりと聞き、真剣に向き合ってくれる家族と共に高め合える仲間、友達、サポートしてくれる指導者のみなさんに支えられています。不安定な時期を乗り越えられたのは、家族の支えがあったからだと思います。これからも家族の時間は、自分の未来を創る大切な時間です。そしていつか、私が安全地帯となり、家族や友達を支えることができる存在になりたいと思います。